



2012年8月6日

公式規則公報 (第16号)

公式規則公報は、日本アメリカンフットボール協会制定の公式規則書・公式規則解説書等の記載内容の解説、例示、変更を行うものである。今後とも必要に応じて適宜発行される。

本文書は、「2012年度・公式規則変更内容・決定報」(2012年6月28日発行)の内容の変更(条文は3ヶ所ですが、内容は1項目)を公報するものです。本公報の内容は、即時に適用します。

記

1. 変更項目

(下線部が変更箇所)

No	規則・解説	篇-章-条	変更前	変更後
1	公 式 規 則	3-2-4-c-12	ダウン中に攻撃側のプレイヤーのヘルメットが完全に脱げた場合。守備側のプレイヤーのヘルメットが完全に脱げた場合は、プレー・クロックを40秒にセットする。	プレーを通じて攻撃側のプレイヤーのヘルメットが完全に脱げた場合。守備側のプレイヤーのヘルメットが完全に脱げた場合は、プレー・クロックを40秒にセットする。 <i>注:プレー・クロックを25秒にセットする条件の1つとして記載されている部分。</i>
2		3-3-2-e-16	ダウン中にプレイヤーのヘルメットが完全に脱げた場合。	プレーを通じてプレイヤーのヘルメットが完全に脱げた場合。 <i>注:ゲーム・クロックが止まり、レフリーのシグナルによって計時が再開される条件の1つとして記載されている部分。</i>
3		3-3-9-a	ダウン中にプレイヤーのヘルメットが完全に脱げたとき、相手側の反則の直接の結果による場合を除き、そのプレイヤーは、次のダウンは試合から離れなければならない。ゲーム・クロックは、ダウン終了時に計時停止となる。	プレーを通じてプレイヤーのヘルメットが完全に脱げたとき、相手側の反則の直接の結果による場合を除き、そのプレイヤーは、次のダウンは試合から離れなければならない。ゲーム・クロックは、ダウン終了時に計時停止となる。

2. 解説

本変更は、2011年7月6日にNCAAから公布された。プレイヤーのヘルメットが脱げるケースとして、以下のような例が想定される。①空中でパスをキャッチしたプレイヤーが、正当にタックルされながら着地し地面に倒れるという動きの中で、ヘルメットが脱げる。②ブロックされているディフェンスのプレイヤーが、ボールデッドの直後に転倒し、ヘルメットが脱げる。

本規則の主旨を考えると、上記のようなプレイヤーは、ヘルメットが脱げたのが、ボールがデッドになる前なのか、デッドとなった後なのかにかかわらず、次のダウンはプレーから離れるべきである。そのため、関係する条文の「ダウン中に」という記載を、「プレーを通じて」という記載に変更する。

以上